

横須賀市主催企業誘致セミナーと
「モノづくり支援をめぐる国の施策と中小企業診断士の対応」

[魚崎 誠也](#)

ずいぶん欲張ったタイトルになったが、9月6日に相次いで行われたイベントであり、共通点もあったので、感想を含め報告する。前者は、横須賀市が、品川プリンスホテルで、経済産業省、環境省の後援で開催したイベントである。横須賀市は、行政への申請書をいち早く電子化したり、時代の最先端に行く団体や企業を積極的に誘致している行政機関である。今回も、YRP(よこすかりサーチパーク)(京浜急行電鉄)、湘南国際村(三井不動産)、Y HEART(西武鉄道)など、民間企業も引き連れての企業誘致が目的であった。さらには、関東自動車工業、富士電機総合研究所など、撤退企業の跡地への誘致も含まれていた。後者は、(社)中小企業診断協会・東京支部・研修部主催のセミナーで、(社)TAMA 産業活性化協会・事務局長・岡崎英人氏により、東京中小企業会館で行われた。TAMA 産業活性化協会は、多摩地区の埼玉県、東京都、神奈川県にまたがる地域で、中小企業の融合を図っている団体として、法人化までして、新連携などで活躍している団体である。国の補助金の申請から獲得・後始末までの苦労話であった。

当初、聴講するまでは、全然、別の話であると漠然と思っていたが、前者のセミナーの経済産業省・三田室長の話の中で、横須賀市は、経済産業省(実際は通商産業省時代に始まった)が日本の製造業活性化のためにぶち上げた「産業クラスター構想」事業のモデル地区の一つであることがわかった。とすると、後者は、確かそのモデル事業の第一号であるのを知っていたので、偶然ではあるが、両者には、大きな共通点を持ったセミナーを聞くことになった。

内容は、紙面の都合で、全部紹介できないが、横須賀市は、市長・企業誘致推進課(今回始めて作った課だとか)まで総動員の熱の入れようであった。新しいリサーチパークづくりもさることながら、関東自動車工業の跡地などを埋めたいのが本音ではないかと思った。

岡崎氏の話は、ものづくり新法も8月までに、399件の認定を済ませたとのことで相当の馬力である。只、最後にあくまでも国の補助金であるので、会計検査院の検査をクリアするために中小企業主がどれだけ対応できるか、また、TAMA 産業活性化協会がその報告書でどれだけ支援できるか不安があるという話が印象に残った。